

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第3271400404号		
法人名	雲南福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム加茂の郷 (ツツジ)		
所在地	島根県雲南市加茂町南加茂706番4		
自己評価作成日	平成22年8月9日	評価結果市町村受理日	平成22年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計
所在地	島根県出雲市荻野町274-2
訪問調査日	平成22年9月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地から離れている立地ではあるが、自分達から地域へ出かけることによって地域交流をすすめてきた。開所から5年半が経過し、地域の皆様にも認められ、来年(平成23年)4月には新しいグループホームも隣接地に開設する予定である。
ご家族との関係づくりもすすめており、生活の様子について定期的な連絡や行事への参加を呼びかけるなど、信頼関係の構築に努めている。
また、入居者の皆様により良いサービスを提供するため、職員研修の充実をはかり、資格取得等も積極的にすすめている。職員の定着化もはかられており、今後とも、サービスの質の向上と組織づくり力を入れていきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から6年目をむかえ、地域福祉の核となるべく、共用型デイサービス、居宅介護支援事業所に続いて、春には隣接地にグループホームを増設予定である。利用者の安心安全を考えた施設の拡充や職員の処遇改善に力を注がれている。昨年度課題として話されていた玄関際まで車が乗り入れられる整備は完成し、利用者が安全に散歩が出来、避難経路ともなる道路の造成にもとりかかられており、その実行力には感心させられる。高台にある為、近所の方との日常的なふれあいが困難な環境にありながら、地区の行事に利用者と一緒に出かけたり、実習生の受け入れやボランティアの申し出も多く、積極的に地域との交流を図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等で利用者一人ひとりの生活支援について、理念をベースにして深く掘り下げることにより、意識して実践につなげていると考えている。	地域との関わりを深めながら、その人らしい暮らしが続けられるように、全職員が同じ思いで日々のケアに取り組んでいる。特に利用者の尊厳を大切に言葉遣いや態度について研修を行い、注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大きな行事(運動会・納涼祭など)での交流はもちろんであるが、健康教室に出かけたり、地域の商店から食材を購入する、毎月園便りを配布するなど、交流を図っている。また、デイサービス事業によってもつながりが深まっている。	地域の行事や町内の健康教室など積極的に参加されている。事業所の納涼祭には、子供連れで近隣の方も参加された。広報誌は、地元自治会や運営推進会議のメンバーが在籍される近隣自治会にも配布し、理解、協力につなげている。又、定期ボランティアの定着に加え、地元高校の演奏会など新たな交流も深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な地域への発信はないが、事業所として「認知症地域支援推進事業」の委員としての活動やキャラバンメイト養成研修への参加などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は年3回開催し、いただいた意見等は常に検討し、ケアの中に取り入れている。	4ヶ月に1回、定期的に関催されている。利用者家族や地域の方にも参加頂き、詳細で丁寧な内容で話し合われており、要望・意見を聞く有意義な場になっている。参加者にバイキングでの食事に参加して頂くなど、事業所の理解を深める工夫をしている。事業所からは管理職員が参加し、内容や課題は職員会議の時に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連携を図り、良好な関係作りに取り組んでいる。	しまね小規模ケア連絡会や地区のグループホーム部会には積極的に参加し、他事業所との交流や情報交換を行っている。又、市内の福祉学生の実習や社協ヘルパー研修の場として受け入れ、地域の福祉の発展に貢献している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「具体的な行為」について、全職員が正しい理解ができるよう努めている。ケアの中で身体拘束は行われていない。	日中は鍵をかけずに、ユニット間も自由に入出入りしている。鍵をかけることの弊害は全職員が十分理解している。出かけられても職員が一緒に出かけ、見守っている。虐待の研修では、言葉の拘束についても学び、繰り返し話し合う機会をもっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	雲南GH部会の研修会で虐待について学んだ。参加した職員からの研修報告で、全ての職員の学習の機会とした。特に言葉遣いについて、見直す機会となった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者対応で行っている。職員の研修(学習)の機会については、現在はまだ設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者対応で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や意見箱を設置するとともに、ご家族の面会時などに、要望などを聞かせてもらえるよう努めている。また、いただいた意見などは、会議等でとりあげケアに反映できるようにしている。	毎月、請求書と、写真入りで利用者の活動の様子がわかる「かも郷だより」を家族に郵送している。職員担当制を導入しており、利用者ごとに担当職員が書いた、近況報告の手紙も同封している。毎月の手紙や来所の際に、サービスに関する意向や要望を伺っている。前回外部評価の結果も全利用者家族に配布されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期面談のほか、職員会議などで意見や提案を聞く機会を設け、運営面に反映させている。	年1回自己評価を基に個別に面談を行っている。今年度は組織作りに力を入れ、リーダー育成に努めた。今年度は他GHとの交換研修に主任が参加された。報・連・相の仕組みや職員に担当や係を決めるなど、業務分担していく事で、職員の自覚や意欲を育てている。	朝礼やユニットミーティングの時間を使って、短時間でも構わないので、ケース検討や勉強会などを計画して頂きたい。又、職員の目線合わせを兼ねてマニュアル整備や交換研修などを通して役職を持たない一般職員の育成も期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、役職員の業務遂行状況を把握し、働きがいのある職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や園内外の研修への参加を積極的にすすめ、その評価も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲南GH部会での職員交換研修などを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と話をする時間は設けているが、十分であるかどうか疑問。入居してからの関係づくりに努めている(不安を和らげるよう、声かけを多くしたり、顔をしっかりと見て話をするなど細やかな対応)。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の契約等の説明の際十分時間をとって面談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、当施設での利用が最善か否かを判断し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体であることを忘れずにケアにあたり、そのことについては、会議等で常に振り返りの機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には、居室でゆっくり過ごしてもらうとともに、ご家族にも外泊・外出・受診などでご協力いただいている。話し合いを大切にし、関係づくりをすすめている。また、園の行事にも参加を呼びかけるなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	継続が難しいことが多いが、ふるさと訪問や退去した方に会いに行くなど関係の継続を図っている場面もある。また、定期的なボランティアの方との新たな馴染みの関係の構築もできている。	以前近所に住まれていた方が、利用者に会いに訪ねて来られる事がある。利用者の故郷や思い出の場所を尋ねる「ふるさと訪問」を開始され、利用者数名と出掛け、新たな話題や表情を引き出す機会としている。恒例のボランティアの方や共用型通所利用の方とは顔馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内の利用者の関係性の把握に努め、職員がきちんと間に入るようにしている。また、一人になれる時間の確保も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去にあたっては、次の生活の場の確保や関係機関との連絡調整を図っている。また、心配のあるご家族にはコンタクトをとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当からの情報やユニット会議での意見交換を中心に、要望の把握に努めている。	利用者同士の会話にも耳を傾け、利用者に合わせて問いかけで本人の意思を確認している。様々な場面で、利用者の意思を表出できる機会を作っている。利用者の意向や対応などを抽出しやすい書式を工夫し、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集(本人・家族・ケアマネ・その他関係機関などから)を行い、その人の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報収集(本人・家族・ケアマネ・その他関係機関などから)を行い、その人の暮らしの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録にきちんと確認し、職員間の意見交換を行いながら、実践や計画の見直しに活かしている。	職員は両ユニットでも対応出来る勤務体制とし、全利用者の状態を把握している。毎日の介護記録は、各ページ上にケアプランが記されており、いつも意識して関わり、毎日丸印をつけて評価出来る様式としている。3ヶ月ごとの見直しとともに、状況の変化に応じて適宜見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	作成している。作成や見直しにあっては、カンファレンス等で職員間の意見交換をおこない、本人や家族からの意見等も反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療・自治会・地域ボランティアなどの地域資源を活用し、利用者の暮らしを支援している。特に、自治会との関係は、今後ますます強化していきたいと考えている。重要な地域資源は人であることを職員間で共有して支援にまわりたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については継続している。往診や相談などを日常的に行える関係づくりに努めている。	入所前のかかりつけ医と連携し、利用者の希望される主治医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、家族の事情や利用者の状態により、往診や職員の受診介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場での医療的な部分では、介護職から看護職へ情報提供や相談がなされている。必要であれば、看護職から適切な医療へつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連絡は密におこない、関係づくりをすすめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、管理者会で議論を重ね、あくまでも個々のケースでとらえていく方針とした。早い段階での話し合いは、現時点では行っていない。	ADLの低下に合わせ、都度ケア会議を開き検討されている。重症化した利用者については、主治医と相談しながら、家族の意向を確認している。必要場合は、適した施設や医療機関を紹介している。	看取りの方針の話し合いやマニュアル作りには、現場の職員も参加することで、職員一人ひとりの自覚や責任が生まれ、より前向きな支援に繋がることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はないが、救急法の講習や緊急時のマニュアルを作成し、勉強会などは実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は定期的実施しているが、地域の方との協力体制は不十分である。避難訓練などへの参加を今後すすめていく。また、近隣の工場とも連携を図っていく計画である。	消防署立会の避難訓練が昼夜想定で年2回行われている。今年度は発煙機を使った避難訓練を行い、具体的な改善策を検討する事が出来た。利用者が安全に散歩出来て、避難経路併用となる道路の造成にもとりかかっている。	利用者の安全確保の為に地域住民の協力は欠かせません。近隣への協力をお願いされていますが、残念ながら今年度は訓練の参加へは繋がっていません。引き続き働きかけをお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に努力している。時に慣れから言葉遣いに問題のあることもあるが、会議等でケアの見直しをおこない、改善を図っている。	個人情報の利用目的や取り扱いが家族に説明し、書面で同意を得ている。利用者の写真の掲載がある広報誌については、利用者家族に別の書面で確認をとり、配慮した上で使用している。権利擁護を利用の方があり、関係機関と連携を図り支援している。	個人情報の取り扱いは適切に行われていません。それを示す意味でも、個人情報保護の取り扱い方針や利用目的を事業所内に掲示されることをお薦めします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定場面を意識して設定している。それが自然に(意識せず)出来る様になることを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースでの暮らしを意識して取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き、身だしなみの支援に努めている。コーディネートに配慮し、「素敵ね」などの言葉をかけることにも大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に行うことで利用者の意欲を引き出すことにつなげているが、職員の流れでおこなっている場面もある。また、献立表を掲示し、食事が楽しみとなる工夫をしている。	調理は、専属の職員を中心に利用者も手伝われていた。一方のユニット厨房で、両ユニット分の準備をしている。全職員が利用者と同じ料理と一緒に食べられていた。自分達が収穫した野菜や2か月に1回のバイキング、誕生日には本人の希望献立や外食など工夫しながら食事を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員で気をつけ、実施している(食事の形態・栄養食品の活用・トロミの使用なども含めて)。また、食事時間にも柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の利用者に応じて、声かけ、見守り、介助等を行っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便チェックシートを使いながら、適切な支援となるよう努めている。	利用者が持つ力や排泄パターンを把握して、自立に向けた支援が行われている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動、便秘薬の使用などにより、個々に排便コントロールを行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望にそった支援であるが、時間帯については事業所として決めている。	希望者は毎日でも入浴出来るが、入浴の時間帯は13時から16時に決めている。入浴時間を固定している事については、毎年、外部評価でとりあげられる度、利用者や家族の意向を確認されている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は、眠くなるまでホールで過ごしていただいたり、飲み物を用意するなど、個々にあった対応をしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が副作用について知識を深めるように努めている。服薬については確実な支援となるよう注意して行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の役割については常に考え、張りのある生活となるよう支援している。また、季節の行事や誕生会・ドライブ・バイキングデーなどをの行事計画を立て、実施している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ふるさと訪問などを個別に取り入れている。今後も実施していく予定。また、希望に応じて買い物・ドライブなどの支援を行っている。	家族との外出や外泊、職員との個別による外食や買い物、ドライブ等、その日の利用者の体調や天候を配慮したうえで、出来る限り利用者の希望を叶えるように支援している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望にもよるが、自分で管理出来る方には自分で財布を管理してもらっている。買い物などの際も、自分の財布からお金を使う方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に行っていただいている。電話番号を押すことや代筆、手紙の投函など、職員の介助の必要な方には、その都度、希望により支援している。また、家族との関係性にも配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置や季節感のある壁面装飾など工夫している。また、一年中花を飾り、利用者の皆さんに楽しんでいただいている。	大きな手作りカレンダーや写真、利用者の絵手紙作品など、壁は多彩に飾られている。庭先や玄関には、常時、季節の花が咲き、利用者や来訪者の心を和ませている。利用者の安心安全を考えた施設の拡充にも力を注ぎ、玄関際まで車が乗り入れられるようにスロープを広げ屋根を設置したことで、天候を気にせずに車の乗降が出来るようになった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の気に入った席(皆さん、自分の席を決めておられるが)で自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については家具が少なく、寂しい感じがしている。ご家族の意向によるところが大きいですが、事業所としても、継続して家族に働きかけていく必要があるとも感じている。	自分の部屋がわかりやすいように、手作りのネームプレートが掛けられている。家具は全て持ち込みで、家族の写真を飾られた部屋、ベッドを使用される方、畳を敷かれている方、仏壇やテレビ、冷蔵庫を持ち込まれている方など各々の個性がみられる居室になっていた。	毎日の居室掃除は、利用者の出来る力を尊重しながら、職員と一緒に行われていますが、掃除が難しいベッド下や拭き掃除などは、職員が欠かさず確認するようにしましょう。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ている。		